



松高通信

風薫る丘

令和6年度 8月号(144号)

令和6年 8月 28日

文責 舟越 裕

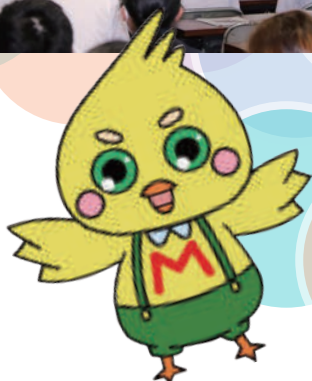
なぎなた部インターハイ出場

7月27日(土)より大分市で行われたインターハイに、なぎなた部が出場しました。個人戦は地域科学科1年 松山 凜香さん(平戸市立大島中出身)と地域科学科2年 阿部 優亜さん(志佐中出身)が共に予選リーグ1勝1敗という結果。団体戦は、予選リーグで前橋西(群馬)を2-0、稲生(三重)を2-1の2連勝で破って突破しました。5年連続の入賞が懸かった決勝トーナメント1回戦では仙台育英(宮城)に0-3で敗れて、入賞を逃して非常に残念な結果となりました。しかし、今回出場したのはまだ経験の浅い1・2年生の選手のみということもあり、今回の経験を生かして今後の活躍が大いに期待できます。これからも部活動への応援をよろしくお願いたします。



オープンスクール 2024

7月25日(木)にオープンスクールを開催し、松浦市内外から約100名の中学生と保護者の方々が参加されました。本校のオープンスクールは毎年、企画・運営の大部分を生徒が行っており、今年も生徒による「松高レンジャー」がクイズを交えた学校説明等を行い、緊張気味の中学生も和んだ雰囲気の中で松高をアピールしました。体験授業や部活体験、ドローン体験等、参加体験型の企画にも積極的に参加いただき、中学生のアンケートでは、先輩が明るく優しい人ばかりだし、充実した高校生活を送れそうという感想や、保護者の方からも高校生がよく頑張っている姿に説明している姿に関心した、体験授業での先生の説明が分かりやすく上手でしたという感想をいただきました。



まつラボ★イベントに初参加

地域の未来を考察、発表、実践する探究活動「まつナビ」の部活動版として、今年からスタートした「まつラボ」が、7月28日(日)に松浦市文化会館で行われた「まるごと一日お楽しみ DAY!2024」に参加しました。「まつラボ」として外部のイベントに参加するのは初めてです。松浦高校のマスコットキャラクターである「まつドリー」の形をしたまつドリー焼きを事前準備から調理、当日の販売まで行いました。用意した約200個は見事完売。生徒たちは、今回の反省を生かし、また次回チャレンジしたいと話していました。



「学ぶこと=変えること=変わること」

校長 舟越 裕

8月に開催された全国高等学校PTA連合会大会茨城大会での話です。記念講演では、大相撲の二所ノ関親方(久々の日本人横綱として大きな期待とプレッシャーを背負っていた稀勢の里)が講師として登壇され、17年間の力士生活や現在の親方としての挑戦について話をされました。私が特に印象に残ったのは、力士引退後、早稲田大学大学院に進学し、大相撲でもJリーグと同じような地域密着で力士を育成するための研究に取り組んだ話です。ご自身は中学校卒業後すぐ角界に入門したため、ほとんど勉強をしておらず、大学院に入学する際にはパソコンも触ったことがなかったそうです。「相撲をやめたいとは思わなかったが大学院は何度もやめようと思った」と仰っていましたが、周りにも支えられながら、力士の育成方法や相撲部屋の経営など多角的に学び、大学院を修了します。そして、親方として独立し、学んだことを実践します。

まず、地域密着としてご自身の地元茨城県に二所ノ関部屋を構えます。普通は両国国技館の周辺に置くそうですが、茨城県(都心校外)に置くことで、部屋に1面しかない土俵を2面にできるということです。このことで、①力士が土俵にあがる時間が増え練習を短時間に集中的に行い、休憩時間ができる、②食事の在り方も変え、③ケガをする力士が減った、そうです。さらに、④力士の人間関係もできるだけフラットにして部屋内の役割を明確にして、⑤休日もとれるようにすると、⑥2022年には部屋別の勝率がトップとなったそうです。話の中では、ケガが多かったご自身の力士生活への後悔が大きく、そうした思いを後輩にさせたくないという親方の人柄も感じられました。改めて人が学ぶのに立場や年齢は関係ないし、常識にとらわれないためにも学ぶことは重要だと感じました。子どもたち、大人たち、たくさん学び、変わりましょう!

美術部 3年生が壁画に挑戦!!

松浦市の岡本測量様よりご提案をいただき、本校美術部3年生が卒業制作を兼ね、岡本測量様事務所の壁に壁画を描かせていただくことになりました。夏休み期間中も、猛暑の中汗を流しながら頑張っています。是非、制作の経過も日々楽しんで見ていただければと思います。



松高ホームページ



今後の行事予定等
ホームページで確認できます



Instagram